

扶桑の専売店主、愛教大で講座

教員を目指す大学生らに学校現場での新聞活用法を知ってもらおうと、扶桑町柏森の中日新聞扶桑東専売店主、高瀬成就さん(48)が3日、刈谷市井ヶ谷町の愛知教育大で出前講座を開いた。4年生約40人が参加し、情報を読み解く力を身に付けた。
(生津千里)



教員の卵に活用法伝授



新聞を使ったエコバッグ作りを学生に教える高瀬さん(右端) 刈谷市の愛知教育大で

見出しを作成、エコバッグ作りも

高瀬さんは、中日新聞犬山支部販売店会などをつくる「新聞生かし隊」の隊長を務め、二〇一一年から犬山市や江南市などの小中学校で出前講座を開き、新聞の活用法を広めてきた。新聞生かし隊による大学生を対象にした講座は、今回が初めてという。

高瀬さんは「これから教員となる皆さんは、情報過多の時代に子どもたちが情報をどう活用するかを教える役目を担う」と話し、情報を取捨選択する能力を養うために新聞を役立ててほしいと訴えた。

また、日本昔話の「桃太郎」を題材に、桃太郎と鬼のそれぞれの立場や伝えたい内容によって見出しが大きく変わることを説明。学生たちは「よくやった桃太郎」「鬼ヶ島壊滅 けが人多数」などと、実際に見出しを付けて発表した。

中日新聞こどもウィークリーの紙面を使ったエコバッグ作りもあり、学生からは「意外と丈夫」「かわいい」と好評だった。

高瀬さんは「先生の卵である大学生の皆さんが、新聞を使った授業を知るきっかけになれば」と話していた。